

## CD「Antes de tí - あなただけを」解説

八木啓代

「ぼくは君の声質とか歌い方が好きなんだけれど、なんというか……」

久しぶりに会ったアレハンドロ・バルデスが言った。彼は現在キューバきってのギタリストの一人。参加したアルバムがグラミー賞を受賞したことで脚光を浴びたが、それ以前から、クラシックからジャズ、ポピュラーまでジャンルを超えて活躍するプレイヤーだ。

「君はもっとキューバン・テイストのものも歌えるんじゃないの？」

確かに、私は以前、ハバタンパというラテンジャズ〜サルサのバンドでボーカルをしていたことがある。そしていくつものジャズ・フェスティバルやサルサ・フェスティバルに出演した。あれはいい思い出だった。ただ。

「ああいうのはもう卒業したの」

サルサはね。嫌いではないけど、もうステージで派手に歌って踊る年ではない。それに私の声質はダンスミュージック向きではないことも知っている。

私がキューバから少し距離を置いていた理由は他にもあった。90年代。キューバは孤立したと言われ、激しいバッシングと不当な誹謗中傷に晒されていた。私がキューバ音楽を歌ったのは、その時代だった。けれど、90年代後半になって、流れが変わった。「ブエナビスタ・ソシアルクラブ」の世界的なヒットで、キューバ音楽が大ブレイクし、誰でもがキューバに行くようになった。写真家はハバナ旧市街の写真を撮影し、音楽家は「ブエナビスタ・ソシアルクラブ」で取り上げられたような曲を現地のプレイヤーと共演できる。そして、キューバって素敵だと言える。

それはとてもいいことだが、そこに、もう私のやりたいことはない。他の人にできることを私がやる必要はない。なまじ若くはないだけに、普通のことでは、私の心は動かない。

「そうじゃなくて、君と僕にしかできない音楽だ。キューバの香りのする、でも、ありきたりなものではなくて」

「たとえば、どんな」

アレハンドロは身を乗り出した。

「キューバには、まだまだ、手垢のついていない才能ある作曲家の素晴らしい曲はたくさんあるよ。そして完璧にキューバ音楽の伝統を踏まえながら、とびきり斬新なものを作ってみたいんだ」

プロジェクトが始まると、キューバのか細く不安定なネット回線を通じて、アレハンドロが次々に若手や中堅の作曲家の作品を送ってくれた。どれも初めて聞く、でも素敵な曲ばかり。

アレハンドロの言った意味がよくわかった。サンティアゴ風の古いトロバヤ、グアラーチャやチャチャチャ…100%キューバ音楽でありながら、誰でも知っている伝統曲ではなく、新しい曲。才能あふれる作家たちの、詩的でありつつ音楽的なクオリティの高い作品。その中には、アレハンドロ自身の作品も（どれも、かなりの音域やリズム感を必要とする、とんでもない難曲ばかりだったが）いくつか含まれていた。

何度も家で聞き返し、曲を選ぶのは楽しいと同時に苦勞した。自分が歌うとなると、聴いていて快いだけでは済まない。伝統曲やサルサやソンなどのダンスミュージックによくある、シンプルな風景や恋愛模様を韻を踏んで歌った詞ならば、リズムに乗っているだけで歌になるが、アレハンドロの送ってくる曲は、メロディラインも複雑なら、詩も文学的な深みのあるものばかり。しかも、録音するのだから、あとに残る。

自分が歌いこなせるのか、ネイティブでない自分がリズムに乗りつつ、詩の世界観までを表現できるのか。かなり不安だったが、チャレンジ精神も掻きたてられた。

そして、それらの曲に、アレハンドロ自身を初め、複数の凄腕の編曲家たちが、これまた「100%キューバ音楽でありながら、ぜんぜんありきたりではない」（つまり、歌う側からすれば、さらにハードルが上がるような）編曲を施してくれ、さらに、たくさんの豪華ミュージシャンが参加してくれた。

そうなれば、こちらもモチベーション全開でいくしかないですね。結果、想像以上に素晴らしいアルバムとなった。ひとつだけは有名曲を入れようということで、メキシコや日本でも知られている「キサス・キサス・キサス」を選んだが、この、ナットキングコールやトリオ・ロス・パンチョスから、プラシド・ドミ

ンゴやジェニファー・ロペスまで、いろいろな人に歌われ尽くしている曲も、斬新な解釈でのアレンジが施されている。

CDが売れない時代とあって腰が重めのレコード会社も、このアルバムに限っては、音を聞くなりすぐにOKを出してくれた。美しいジャケット写真は、メキシコを代表する舞台写真家で、ローリング・ストーンズの写真などで世界的に有名なフェルナンド・アセベスの撮影である。

その後、この音源を聴いた、キューバ音楽界の重鎮のひとり、ビセンテ・フェリウがアルバムに言葉を寄せてくれた。

異文化を受け入れるということは、けっして簡単ではない。ましてや歌うとなると、それはもっと困難を伴う。とはいえ、いくつもある八木啓代の利点の最大の点は、キューバ音楽を演奏するという伝統がもともと日本にあったことに加え、彼女自身がメキシコに住み、ラテンアメリカの新しい歌の文化を分かち合ってきたことだ。そしてまた、何年か前に日本で行われた、キューバの歌手たちによるトロバのコンサートでの経験も、彼女にこの種の音楽を理解する助けになっているだろう。実際に、あのプロジェクトに携わった何人かの作曲家や編曲家、演奏家がこのCDに参加している。

いずれにしても、彼女の趣味の良さ、音程、そして並外れた聴力と歌唱力が、この島で録音されたこのアルバムを、もっとも要求水準の高い贈り物としてくれた。

このCDには、名だたる作曲家、音楽家、編曲者が参加している。タイトルとなっている「あなただけを」のペドロ・ロメロは言うまでもなく、アレハンドロ・バルデス、マヌエル・アルグディン、エフライン・リオス、ホセ "ペペ" オルダス、フアン・カルロス・ペレス、アウグスト・ブランカ。さらに、20世紀キューバ音楽の古典といえる伝説的な「キサス・キサス・キサス」のオスバルド・ファレなどがそうだ。

啓代がここに示してくれた、キューバとその音楽に対する彼女の愛情に心から感謝したい。そして、これを聴く方は、是非、愉しんでいただきたい。魂が成長するだろう。

ビセンテ・フェリウ 2019年8月、ハバナ

身に余るお言葉である。魂が成長するかどうかまではわからないが、どうぞ、愉しんでいただきたい。

**黄昏の歌 Arte verpertina**  
(ベニート・デ・ラ・フエンテ)

魅せられたように燃えあがる黄昏  
生けるものの儀式の予感  
不信心な私でさえ  
神の導きを感じるほどに

窓にもたれて考え込むあなた  
別れを告げられずに私を見る  
明日まであなたは帰らない  
誘惑に勝てるわけがない

あなたは午後の終わりまで  
ここにいて  
仕事も良識も忘れて  
来るべきではなかったという  
良心の声にも耳を塞ぐ

あなたはここにいて  
やさしく輝かしく  
ただ黙って、ここにいて  
触れたものすべてを詩に変えて  
遙か昔からのように  
私に口づける

私のもとに留まって  
共に夜に向かいましょう  
風の運んでくる想いに素直におなり  
私の世界も月と共にある運命も  
私の歌も知っている  
ずっと前から、そう決まっていた  
のだと

**あなただけを Antes de ti**  
(ペドロ・ロメロ)

愛してるかとあなたは尋ねる  
自分が最初の恋人なのかと  
だから私は答える  
あなたが来る前には  
月も明星も  
蛍と区別がついていなかったと  
あなたに会うまでは  
暗闇で探りを入れてたようなもの  
そこにあなたがやって来て

私の空が明るくなった

あなたの前にはなにもなかった  
勇気を出したから  
すべてが始まった  
あなたがやって来て私を満たし  
私の氷を溶かした

私たちは失敗したのかもしれない  
い  
なにもかもうまくいかなかった  
望みや夢が遠ざかっているよう

でも、あなたは私を許してくれた  
た  
私を冷たく感じて  
それでもあなたは来てくれた  
そしてあなたの髪で私を包み  
あなたの露で私を湿してくれる

あなたの前にはなにもなかった  
勇気を出したから...

**霧 La bruma**  
(エフライン・リオス)

いつも私を見つけるのは  
同じ場所での同じ歌  
私の周りの同じ風景  
時代や愛に陶酔する人々

けれど私は  
霧に向かって歌い続ける  
そして時に叫ぶ  
誰も聞いてなんかいないけれど

ひとりぼっちの誰かが  
たばこを吸っている  
どこかのカップルが  
押し黙っている  
あちらでは熱い議論を交わし  
こちらでは軽いキスを交わして  
る

けれど私は  
霧に向かって歌い続ける  
そして時に叫ぶ

誰も聞いてなんかいないけれど

帰り際には締め論評  
夜は素敵でいつもと同じ  
仕事が終われば職場を離れる  
明日も同じ  
時間通りに、怠りなく

家路に就きながら  
特に考えることもない  
見なくてもできる  
毎日のルーティンワーク  
私を待つ人が家について  
帰るなり訊かれる  
今晚はどうだった？  
私はただ  
霧に向かって歌い続ける  
時に叫ぶ  
誰も聞いていないけれど

それでも私は  
霧に向かって歌い続ける  
そうしたら、いつか  
誰かの耳に届くかもしれないから

**憂いなき口づけ**  
**Besos sin sombras**  
(マヌエル・アルグディン)

憂いのない口づけは  
伝統的なステップ  
斬新な抱擁は新しい絨毯  
今はなき時代の古い歌には  
曖昧な比喻もない

時は風のように忍び足  
幽霊たちも落ち着かせない  
灰色の亡霊の後を消し去り  
傷口を癒やし  
古い過ちを純化する

憂いのない口づけは  
新たな欲望  
新たな抑揚  
新たな熱情

別の時代の刻印なき口づけには  
わずかな情性の染みもない

もし偏見に縛られているなら  
罪なギターの音のように  
体を自由にしてあげて  
張り裂けるように叫び  
そして過去のせいにはしないで

### 夜のささやかな歌

#### Pequeña canción nocturna (アレハンドロ・バルデス)

わからない  
あなたの思い出を  
私の人生から  
消去することができたのかどうか

わからない  
いまでも私の詩が  
あなたの側で  
狂ったように  
はねているのか

わからない  
いまでもあなたの微笑みが  
私の心を乱すのか

わからない  
いまでも、あなたが  
私を懐かしく想うことがあるのか

### だから、どうなる？

#### Entonces qué será (マヌエル・アルグディン)

私の忍耐や愛情や調和が足りず  
つまらない感情の爆発で  
あなたの腕を振りほどいたあの夜に  
失った恥や誇りを取り戻せるなら  
自分の手綱を取り戻せたら  
そうしたら、あなたはどうなるの

私への当てつけに  
あなたが取り返しのつかないこ  
とをしてしまったら  
新しい布団の下で他の愛撫があ  
れば冬だって耐えしのげると

ほんの少しの救いがあるとすれば

あなたを記憶から消し去ること  
私の目はもう互いを見ないことに  
する  
あなたの絨毯の純白の静けさの上  
で

そのときあなたの目はどうなるの  
私の両目が陽を向いて輝き  
私を引き寄せる、その香りが  
あなたの中の痕跡を拭い去る

もうひとかけらの期待も抱いて  
いないなら  
隠さなくてはならないような感  
情さえ失ってしまったら  
あなたの心の扉に積まれた沈黙は  
夕暮れの影になるだろう

ああ、本当に  
人生が私から奪ったのは  
避難場所の暖かさ  
顔に浮かぶ無邪気な冗談  
過たぬあなたの信念

私のばかげた詩がなにになる  
あなたの名前に幾文字を使った  
として  
今や私に残っているのは  
ありきたりな話を語る幻想だけ

だからどうなる？

### あなたがいなるとき

#### Quando no estás (ペペ・オルガス)

冬が私を包み  
あなたの香りを嗅ぐ  
目を閉じれば  
諦めて認めるほかない  
あなたは、ここにいない

私の両手は  
あなたの手のぬくもりを求めて  
それがつらい  
私の体はあなたを求めている

私を導く光がほしい  
あなたのところまで運んでくれ  
る道を

あなたがいなるとき私は  
遠く青い森を彷徨う亡霊  
そこで悪ふざけを忘れることを  
学び  
それから戻ってくることを思い  
出す

あなたがいなるとき私は  
束の間の幸を探す時の精  
あなたを愛してる  
たとえあなたがいなくても

### 日にちの問題ではなくて

#### No todo es cuestión de días (アレハンドロ・バルデス)

もう一度、そこに行く  
あなたのことばかり考える、  
そんな想いと共に  
その海には  
時には  
あなたの微笑みと私の不安

なんて綺麗なんだろう  
青で装って  
僕の朝をかき乱し、花を咲かせる  
蜂鳥が舞い  
ただ舞って  
蜜を求めて去って行く

もう一度、そこに戻る  
君のことを考えながら  
明日も同じことが起こるかもし  
れないから

### 贈り物 Regalo II (アウグスト・ブランカ)

風に贈るための歌がほしい  
あなたがいいつも歌ってくれるよ  
うに  
あなたの耳にとまり

眠っていても聴いているような  
そんな歌が

あなたが悲しいときのための  
そんな歌がほしい  
あなたが楽しいときのための  
そんな歌がほしい

あなたとともに歩み  
あなたに安らぎを与える歌がほ  
しい  
たとえ、わたしがそこにいなく  
ても

私の代わりをしてくれる  
そんな歌がほしい  
あなたが歌うそのときに  
あなたの息を呼吸する  
そんな歌が

**キサス・キサス・キサス**  
**Quizás, Quizás, Quizás**  
(オスバルド・ファレス)

いつもあなたに尋ねる  
いつ? どうやって?  
どこで?  
あなたはいつも答える  
たぶん、そのうち、いずれ

そうやって日々は過ぎ  
私は希望を失っていく  
そしてあなたは同じ答え  
たぶん、そのうち、いずれ

あなたは、そうやって時間を  
失っていく  
考えているばかりで  
あなたの本当にしたいこと  
一体いつまで待たせるの?

**想いの果て Esta reflexion**  
(アレハンドロ・バルデス)

起こったことは  
空想に身をまかせ

愛をお祭り騒ぎから引き出せな  
かった  
そういうこと

起こったことは  
永久の春の中でさえ  
私たちは諍いを捨てられず  
幸運を捨ててしまったのだと

そして悲しみが扉を叩き  
永遠の春が終わりを告げ  
それでも願いは残っていた

やがて冬の灰色の日々が  
望みや情熱を剥ぎ取っていった  
夜明け前の寒風のように

だから、こうなった  
いま、互いに見つめ合い、  
そして気づいたの  
愛はとうに、終わっていたのだ  
と

**こんな世界**  
**Mundo Bajo**  
(ファン・カルロス・ペレス)

あなたの心の淵をさすらい  
砂漠のような街と  
救いのない街を見つけた  
そして、ある晴れた日に気づく  
あなたに感じていた何かを  
失ってしまったことに

悲しみの淵をさすらい  
人は過去を求めて泣き  
欺くことに疲れ  
けして到達できないどこかに  
行こうとしている

ひどい世界  
狂った世界  
高くつく世界  
変な世界  
狂った世界

あなたの心は

自由の意味をはき違え  
愛と条件をはき違えた  
そこから逃げだしながら  
持ってきた夢を見失い  
行き先も見失った

ひどい世界  
狂った世界  
高くつく世界  
変な世界  
狂った世界